

【JHUPO 通信 No. 3】 2009. 4. 2



JHUPO 第 7 回大会

4月1日より JHUPO 第7回大会のオンライン事前参加及び演題登録システムが稼動を開始しました。下記大会ホームページから登録できます。

開催日時：2009年7月27日(月)-28日(火)

場 所：北里大学薬学部（東京都）

大会ホームページ：http://www.bioweb.ne.jp/7th_jhupo/

【研究室便り-1】 新潟大学山本研究室

プロテオーム研究を行っている研究室を順次ご紹介します。初回は、新潟大学大学院医歯学総合研究科附属腎研究施設構造病理学分野《山本 格》先生の研究室。山本先生ご自身に紹介していただきます。

ヒト腎臓・尿プロテオームプロジェクト研究

腎臓病の多く（慢性腎臓病）は気づかぬうちにゆっくり進行し、腎臓の働きがなくなる（慢性腎不全）病気です。この病気になると、体内の不要な代謝産物を尿から排泄できず、体の水、電解質バランスなどが狂い、血液透析療法や腎臓移植に頼らざるを得なくなります。現在、この病気が生活習慣病の増加などに伴い、世界中で増え、日本人では約5～25人に1人ぐらいはいると推定され、血液透析療法を受けている人の増加となっています(2007年末で27万人)。慢性腎臓病の多くは腎臓で血液を濾過するために毛細血管が糸玉状になっている装置、糸球体が破壊されることから病気が始まり、腎臓全体に及んでゆきます。慢性腎臓病はその原因や腎臓（その中でも糸球体）が傷害されるメカニズムの詳細が解明されていないため、病気の進行を完全に阻止する根本的な治療法が開発されていません。

私ども新潟大学大学院医歯学総合研究科附属腎研究施設構造病理学分野はヒトの腎（特に糸球体）組織や尿蛋白質をプロテオミクス解析し、バイオインフォマティクスを駆使して、腎臓病の病因や病態を解明しようとしています。研究室には海外からの研究員、大学院生が多く、中国から5名、エジプトから3名が日本人10名ほどに加わり研究しています。腎生検で得られる腎組織からマイクロダイセクション装置で糸球体を切り出し、そのプロテオームを正常糸球体と比較しています。プロテオームからパスウェイ解析を行い、糸球体の病的異常を解明したいと思います。世界の約30施設との国際連携研究、ヒト腎臓・尿プロテオームプロジェクト（Human Kidney and Urine Proteome）（<http://www.hkupp.org>）HUPO Initiativeを主導し、毎年シンポジウムを開催し、ヒトの腎組織や尿のデータベースを構築しています。このプロジェクトでは他のHUPOイニシアチブ、Human Antibody Initiative（Human Protein Atlas）やHuman Plasma Proteome Initiativeと連携してヒト腎臓・尿プロテオームをより理解する研究も行っています。

一方、国内連携研究として日本腎臓学会による尿バンクの構築とそれを用いた尿バイオマーカーの探索研究を国内の約20施設の大学と開始し、それを主導しています。腎臓病の早期発見、早期診断などができる尿バイオマーカーやそのパネルを見つけようというものです。（新潟大学 山本 格）

お願い： 会員の皆様の研究室をご紹介下さい。

400～800字の原稿を平野（hirano@yokohama-cu.ac.jp）宛お送り下さい。

HUPO 第8回世界大会

開催日時：2009年9月26日(日)-30日(水)

場 所：カナダ トロント

詳 細：<http://www.hupo.org/meetings/congress/?8>

【JHUPO 通信】は JHUPO 会員の皆様に送付しています。

【アドレス変更/配信中止】【ご質問・お問合せ】は、
JHUPO 事務局（cljhupo@secretariat.ne.jp）にお願いいたします。